

A演説一覧

年	総会回	受賞者	演題
2022 (令和4)	68 (盛岡)	眞杉 洋平	膵管癌の悪性度を規定する特徴的病理像に係る分子病理基盤の解析
		近藤礼一郎	肝疾患に関する病理学的研究: 肝臓の内皮細胞が病態に及ぼす影響の解明
		増井 憲太	膠芽腫の分子病態 - 代謝が規定するがん細胞のphenotype -
		樋上 賀一	健康寿命延伸における脂肪細胞のミトコンドリアの量と質の制御
		早瀬ヨネ子	遺伝性てんかんラット (IER)の原因遺伝子の同定並びにてんかん焦点形成機序解明と、今後のヒト治療研究への道
		里見 介史	中枢神経系腫瘍のゲノム・エピゲノム研究と病理診断への応用
		桑原 一彦	ヒト腫瘍発症及び悪性進展における転写共役型DNA傷害の病理学的意義- 非遺伝性散発性乳癌の解析からの知見 -
		坂本 直也	Transcriptome 解析による胃がんオルガノイドを用いた薬剤耐性関連分子の研究
2021 (令和3)	67 (岡山)	野島 聡	クラスIV型セマフォリン分子群の病理学的研究
		吉田 朗彦	円形細胞肉腫の診断病理学的研究
		藤井 慎介	口腔がんにおいて異常活性化したシグナル伝達とその機能解析
		山下 篤	血栓症の発症に繋がる血栓の発生および成長機序の解明
		加藤 洋人	ゲノミクス解析から明らかになったがんの分子メカニズム
		狛 雄一朗	間質細胞と細胞間相互作用による腫瘍進展機構の解析
		富田 弘之	FGF10-FGFR2-ERKシグナルを介した胆管内乳頭状腫瘍の発生とその形態維持、悪性化の病態解明
		2020 (令和2)	66 (浜松)
山田 裕一	転座関連肉腫における遺伝子転座の病理学的意義に関する研究		
大喜多 肇	小児固形腫瘍の遺伝子異常と腫瘍発生機構の解析		
桑田 健	精密医療の実現を目指した胃癌における分子プロファイルとその不均一性に関する検討		
内木 綾	酸化ストレスから見た発癌機序の分子病理学的解析と臨床応用への試み		
岡崎 泰昌	アスベストによる中皮細胞傷害と発がん機構の解析		
加留部 謙之輔	濾胞性リンパ腫のゲノム異常と臨床病理学的意義の解明		
田中 正光	スキルス胃癌における間質細胞ネットワークの解析		
森 泰昌	頭頸部扁平上皮癌の発生におけるp53-p16/RB経路制御機構異常		
2019 (令和元)	65 (茨城)	柴 綾	初期肺腺癌の異常増殖機構の解明と新しい治療戦略の提案
		美島 健二	唾液腺難治性疾患の解明を目指した腺組織3次元モデルの開発
		加藤 哲子	卵巣明細胞癌の病理形態とその分子基盤に関する研究
		尾島 英和	病理形態学を基盤とした、胆道・肝悪性腫瘍の進展に関わる分子機構の解明 ～胆道癌と肝細胞癌の比較を通して～
2018(平成30)	64 (広島)	鈴木 理	ヒト悪性リンパ腫における糖鎖生物学
		中澤 温子	中央診断を基盤にした小児がんのリスク分類による治療層別化の試み - 神経芽腫における国際病理分類とゲノム異常 -
		金関 貴幸	プロテオゲノミクスによるがん抗原解析と新しいT細胞免疫応答の解明
		三好 寛明	腫瘍免疫関連蛋白および造血器腫瘍に関する臨床病理学的研究
		高澤 啓	腫瘍におけるタイト結合 - 細胞生物学から臨床まで -
		松原 大祐	ドライバー変異に依存しない肺腺癌における細胞分化と分子異常の研究
		松田 陽子	膵臓の加齢性変化が発癌に及ぼす影響の病理組織学的解析
		2017(平成29)	63 (東京)
古屋 充子	Birt-Hogg-Dubé 症候群のポストゲノム包括診療		

		榎本 篤	アクチン結合タンパク質Girdinの機能解析による細胞移動の統合的理解
		笹平 智則	口腔癌における腫瘍促進因子としてのMIA gene family の役割
		下田 将之	組織内微小環境因子代謝を介した腫瘍進展機構に関する研究
		田中 美和	融合遺伝子陽性の骨軟部腫瘍モデルマウスの樹立と発がん機構の解明
		牛久 哲男	ゲノム医療時代の胃癌病理学研究—基礎研究成果を生かし個別化医療の実現を目指す
		向所 賢一	胆汁酸を含む十二指腸液逆流による上部消化管癌の発生及び進展への影響
2016(平成28)	62 (石川)	相田 順子	定量的 FISH法によるテロメア長解析による老化と発癌機序の解明：新たな前癌病変状態の発見
		佐久間裕司	EGFR変異陽性肺腺癌と特発性肺線維症の分子細胞病理学
		高田 尚良	節外性リンパ腫の臨床病理学的、分子生物学的研究
		塚本 徹哉	胃癌の発生進展とその予防
		孝橋 賢一	SMARCB1/INI1 蛋白欠失腫瘍群における遺伝子異常と鑑別診断
		小山内 誠	レチノイン酸代謝を起点として理解する多彩な病態と新しい治療戦略
		新井 恵吏	腎発がん過程におけるエピジェネティック異常
		常山 幸一	異なるメカニズムに起因する新しい肝細胞癌発症モデル動物の開発と病態解析、及び治療法解明への応用
2015(平成27)	61 (東京)	山口 浩	膵 intraductal tubulopapillary neoplasm —WHO 分類基準改定に至った新規腫瘍概念—
		石渡 俊行	癌幹細胞と上皮間葉転換を標的とした革新的な癌治療法の研究
		塚原 智英	ヒト骨肉腫の分子病理と免疫応答
		青木 茂久	物理刺激と細胞間相互作用を基盤とする新規病態解析モデル
		笠井 謙次	Hedgehog シグナル伝達から見た膵臓癌の分子病態
		坂本 啓	NOTCH1の司る扁平上皮分化とその破綻による腫瘍発生機序
		石川 俊平	がんの包括的ゲノミクスによるゲノム病理学的研究
		河崎 秀陽	幹細胞に着目した中枢神経系サイトメガロウイルス感染症の病理発生
2014(平成26)	60 (沖縄)	大石 善丈	婦人科腫瘍の新知見と疾患概念の整理、および抗癌剤耐性機序の解明
		三上 俊治	腎細胞癌の増殖・進展機構に関する研究
		廣橋 良彦	ヒトがん幹細胞免疫制御の分子病理学的基盤
		高橋 礼典	アルツハイマー病における神経細胞内 β -アミロイド (A β) の動態とその病理学的作用
		宮川 文	生体肝移植後長期合併症と免疫寛容、グラフトの老化との関連
		小嶋 基寛	漿膜弾性板を超えて浸潤する大腸癌に生じる形態変化と形成される微小環境の解明
		上野 博夫	マルチカラー細胞系譜追跡法による成体幹細胞の同定と癌の起源の研究
		伊藤 靖	霊長類モデルを用いたインフルエンザウイルスの病原性の解明と予防・治療法の開発
2013(平成25)	59 (甲府)	小林 基弘	リンパ球ホーミングから捉えた慢性炎症性疾患
		菰原 義弘	ヒト悪性腫瘍における腫瘍随伴マクロファージに関する病理学的解析とその役割について
		中村 保宏	原発性アルドステロン症の発症/臓器障害機序と亜型分類
		山元 英崇	分子病態に基づいた胃腸管間質腫瘍の亜型の確立と腫瘍進展メカニズムの解明
		外丸 詩野	プロテアソームの機能異常と病理作用
		伊東 恭子	脳形成障害の発生病理解明 — 遺伝要因と環境要因に着目して
		本間 尚子	エストロゲン関連疾患という観点からの老年期女性疾患研究—エストロゲン制御による健康長寿達成に向けて—
		矢澤 卓也	小細胞肺癌の細胞形質を制御する転写因子の機能解析から見えてくるもの
2012(平成24)	58 (名古屋)	池原 謙	生物機能と疾患の理解を目指した糖鎖生物学研究
		二口 充	骨微小環境における腫瘍間質相互作用のメカニズム：前立腺がんおよび乳がんを用いた動物モデルによる解析

		新村 和也	酸化的損傷塩基の除去修復因子であるDNAグリコシラーゼの活性の個体差・異常とがん化に関する研究
		竹内 賢吾	病理医による疾患と病因の発見
		池田純一郎	悪性リンパ腫を中心としたヒト腫瘍における腫瘍幹細胞の探索
		黒田 直人	腎腫瘍の細胞遺伝学的・分子生物学的研究 ～新しく同定された組織型を中心に～
		山本 宗平	卵巣明細胞腺癌の発生・進展機構に関する病理学的研究
		穴戸-原 由紀子	進行性多巣性白質脳症の核内ウイルス封入体 ～JCウイルス感染の標的、PML-NBsの病理学的意義～
2011 (平成23)	57 (東京)	広瀬 幸子	全身性自己免疫疾患の疾患特異性に関わる遺伝要因の解析
		一宮 慎吾	Lシリーズ抗ヒトリンパ球抗体の有用性とその抗原系の解析
		清川 悦子	生きた細胞・組織における極性形成の機構の解明
		西浦 弘志	白血球生物学から見た急性炎症反応の終止機構
		関根 茂樹	腫瘍発生に関わるβ-catenin変異とその生理的機能の関連
		柴田 龍弘	酸化ストレス制御を司るKEAP1-NRF2システムのがんにおける異常と病態像との関連
		島田 啓司	膀胱尿路上皮癌進展にかかわる新規分子メカニズムの解析と病理診断への応用
		上野 正樹	血液脳関門障害血管における血管障害の分子メカニズム解明から血管性認知症の治療へ
		全 陽	IgG4関連疾患：疾患概念の確立と病態研究
2010 (平成22)	56 (北九州)	伊倉 義弘	動脈硬化症と非アルコール性脂肪性肝疾患発生病理との類似性：メタボリックシンドロームおよび血管病理の視点から
		小林 博也	癌免疫、アレルギー制御に関わるHLAクラスII分子結合性ペプチド抗原の分子病理学的解析
		佐藤 保則	カロリ病の肝内胆管拡張と肝線維化機序の解明とその制御：動物モデルPCKラットを用いた検討
		樋田 京子	がん微小環境内の血管内皮の異常性
		平岡 伸介	多段階発がん過程における抗腫瘍免疫機構に関する研究
		高橋 智	前立腺発癌化学予防に対する実験的アプローチとそのメカニズムの解明
		藤井 誠志	ヒストン修飾蛋白によるがんの発生及び進展機構の解明
2009 (平成21)	55 (東京)	坂下 直実	コレステロールによるマクロファージの機能制御：ACAT1陽性特異オルガネラの発見から細胞内コレステロール代謝制御、ファゴゾーム機能障害、C型ニーマンピック病治療戦略まで
		石津 明洋	モデル動物の解析による自己免疫疾患発症機序の多面的理解
		保坂 直樹	胸腺移植併用による次世代の骨髄移植法の開発—T細胞の分化増殖・制御に向けて—
		大上 直秀	SAGE法で同定したRegIVの各種がんにおける分子病理学的意義
		増本 純也	インフラマソームの機能から考える炎症疾患発症の分子基盤
		佐々木素子	細胞老化に着目した肝胆道系疾患の発生・進展機能の解明
		山田 健人	疾患モデルの確立によるヒトがんの生体内での分子病理学的研究
2008 (平成20)	54(松山)	工藤 保誠	口腔癌の増殖および浸潤に関する分子病理学的研究
		福嶋 敬宜	膵腫瘍における間質浸潤・腫瘍間質の特徴：臨床病理学および網羅的遺伝子発現解析からのアプローチ
		齋藤 剛	滑膜肉腫における上皮間葉および間葉上皮移行—SYT-SSX融合遺伝子と細胞間接着蛋白の関与—
		杉野 隆	浸潤非依存性移転モデルの開発と分子メカニズムの解明
		鈴木 貴	乳癌におけるアロマターゼの発現意義
		木藤 克己	ユビキチン様タンパク質の機能解析
		原田 憲一	胆道系自然免疫と病態形成への関与：胆道閉鎖症を中心に
		岩渕 和也	ナチュラルキラーT (NKT) 細胞機能の分化と生体内における新しい役割
2007 (平成19)	53(東京)	千葉 英樹	細胞間接着と極性形成の制御機構

		岩屋 啓一	乳癌の形態異常と悪性度診断
		北澤 理子	破骨細胞分化を制御する分子機構の解析
		石丸 直澄	自己免疫疾患におけるNF- κ Bシグナルを介したT細胞の制御機構
		片野 晴隆	エイズ関連悪性腫瘍の感染病理に関する研究
		相島 慎一	肝内胆管癌の発生と進展機序の解明～腫瘍制御を目指して
		石井 源一郎	がん間質形成過程に関わる線維芽細胞の生物学的ダイナミクス
		鳥越 俊彦	乳癌に対する免疫応答と免疫逃避機序の病理学的解析
2006 (平成18)	52(和歌山)	清水 章	慢性糸球体腎炎の遷延と毛細血管網の修復不全、および、その積極的な治療
		範 江林	遺伝子改変ウサギモデルによる動脈硬化の分子病態の解明及びトランスレーショナルリサーチへの試み
		梁 明秀	ペプチジルプロリルイソメラーゼPin1の分子病理学
		竹内 保	Notch リガンドのユビキチン連結酵素異常がもたらす腫瘍形成、進行の分子病理
		進藤 正信	アデノウイルスがん遺伝子と細胞がん化機構 – Ets ファミリー転写因子 E1AFとE4orf6 の役割
		西川 祐司	三次元長期培養系を用いた肝細胞の胆管上皮化生の研究
		中村 光利	脳腫瘍の病理診断における遺伝子解析の有用性
		梅村 しのぶ	Estrogen receptor α 陰性/Human epidermal growth factor receptor-2 陰性乳癌の細胞増殖分化の特性
2005 (平成17)	51(東京)	長尾 俊孝	唾液腺腫瘍における臨床病理学的研究と新たな疾患単位の提唱
		今井 康雄	薬物トランスポーターBCRP/ABCG2のEstrogenによる機能調節
		櫻井 信司	Gastrointestinal Stromal Tumor(GIST)の病理
		菅井 有	分離腺管を用いた消化管腫瘍の分子病理学的解析
		稲垣 宏	MALTリンパ腫とAPI2- MALT1 キメラ遺伝子
		藤井 博昭	癌肉腫の組織発生とその発育進展様式の分子病理
		今村 隆寿	細菌プロテアーゼによる血管透過性亢進と凝固誘導作用の解析
		近藤 英作	悪性リンパ腫増殖の分子機構と難治性腫瘍増殖抑制へのアプローチ
		三枝 信	変異型 β -カテニンによる子宮内膜癌細胞の増殖抑制・分化誘導機構の証明
		高桑 徹也	慢性炎症から発症するリンパ腫発生機構の分子生物学的研究
2004 (平成16)	50 (名古屋)	新井 富生	高齢者消化管癌の臨床病理学的特徴とその分子機構
		松川 昭博	自然免疫/炎症の発現・制御に関わるサイトカインとシグナル伝達因子の機能解明
		足立 靖	骨髄細胞の多目的利用：骨髄移植と骨髄移植を応用した臓器移植および骨髄細胞を用いた再生医療
		今中 恭子	心筋組織修復におけるテネイシンCの分子機能と臨床応用の可能性
		鱒淵 英機	ヒト発がん物質である砒素の発がん機序の解明—動物モデルを用いた実験病理学的解析—
		井出 文雄	ノックアウトマウスを用いた発癌分子機構の実験的解析—DNA修復関連遺伝子を中心に—
		古田 玲子	子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN) の発がんリスク評価
		大井 章史	固形癌におけるc-erbB-2 およびEGFR遺伝子異常の検討：分子標的療法導入を視野にいれて
		長谷川 匡	骨軟部肉腫における上皮性分化と悪性度
		山中 正二	ライソゾーム病における病態形成と自己抗体
2003 (平成15)	49(東京)	斎藤 一郎	EBウイルスによるシェーグレン症候群発症機構の解明
		鄭 子文	Epstein-Barr virus 関連胃癌における癌化機構の解析
		伊藤 浩史	消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化関連蛋白の役割
		富田 裕彦	癌の転移におけるValosin-containing protein(VCP)の役割
		矢田部 恭	肺癌における細胞lineageの意義
		石川 雄一	早老症Werner症候群における発がん分子疫学

		下川 功	ほ乳類の老化遅延、寿命延長機構：GH-IGF-1 抑制とカロリー制限の相違
		池田 栄二	糖尿病網膜症における眼内血管新生病変形成の分子機構—組織低酸素状態の病態への関与—
		伊藤 彰彦	新規マスト細胞接着分子SgIGSFの単離とそのマスト細胞の生存における役割
		田中 祐吉	膵芽腫及びsolid-pseudopapillary neoplasm の組織学的・分子生物学的新知見
2002 (平成14)	48 (岡山)	金井 弥栄	ヒト多段階発がんにおけるDNAメチル化の変化
		范 江霖	リポ蛋白質代謝および動脈硬化研究のためのトランスジェニックウサギ・モデルの開発とその応用
		長嶋 洋治	腎細胞癌の分子生物学的研究
		遠藤 泰志	胃分化型腺癌の細胞形質と遺伝子異常
		仁木 利郎	がん浸潤と炎症・創傷治癒との類似性：肺腺がんにおけるlaminin-5とcox-2の発現解析から
		田中 伸哉	細胞癌化のシグナル伝達機構の解析—アダプター分子クラック (CRK) の2つの役割
		北澤 莊平	エピジェネティクスによる遺伝子発現調節機構の解析：病理組織検体への展開
		古川 徹	ゲノム解析による膵臓癌における遺伝子異常の解明および増殖抑制遺伝子の発見
		池田 通	破骨細胞形成因子RANKLアイソフォームと骨代謝調節
		草深 公秀	唾液腺原発多形性腺腫における軟骨様分の形成機序
		猪山 賢一	基底膜IV型コラーゲン α 鎖分子の質的動態からみた外科病理学：特に、癌の初期浸潤における基底膜の異形成について
2001 (平成13)	47 (東京)	中村 康寛	ヒト発育脳における脳構築の変化 (マトリックス細胞説に基づいて)
		小田 義直	滑膜肉腫の臨床病理および分子病理学的解析
		星田 義彦	腎移植患者に発生する悪性腫瘍についての病理疫学的・分子病理学的検討
		森井 英一	マスト細胞分化における転写因子M I T F の役割—種々の突然変異マウスを用いた解析
		丸山 直記	老化指標蛋白質SMP30と加齢病態発症機序
		坂元 亨宇	肝細胞がんの増殖、浸潤、肝内転移に果たすEpithelial Mesenchymal Transition の意義ならびに分子細胞機構
		伊藤 隆明	肺神経内分泌細胞の分化制御機構について
		中西 速夫	癌微小転移形成過程の分子細胞生物学の解析とその臨床応用
		渡辺 昌俊	ヒト前立腺癌におけるエピジェネティックな遺伝子発現制御機構の解析
		鬼島 宏	活性型ras遺伝子の新しい腫瘍病理学的機能の解明：ras遺伝子標的リボザイム (RNA酵素) による分子病理学的解析
2000 (平成12)	46 (仙台)	竹腰 進	酸化ストレスによる神経細胞傷害の分子機構—Protein kinase C 情報伝達系の異常にもとづく微小管崩壊機構の解明を中心に—
		田中 亨	F G F 8の機能と病態
		小山田正人	心臓におけるギャップ結合の役割と病態発生への関与
		片岡 寛章	癌細胞の産生するセリンプロテアーゼインヒビターの癌細胞増殖と浸潤における意義
		加藤 光保	T G F - β シグナルの異常と発癌
		横瀬 智之	肺異型腺腫様過形成-細気管支肺胞上皮癌シーケンスの分子病理学的解析
		一迫 玲	腫瘍形成型リンパ球増殖性疾患の診断システムにおける染色体分析の意義
		太田 浩良	Helicobacter pylori 感染性胃炎の病理-とくに表層粘液ゲル層の病理-
		黒田 雅彦	粘液型脂肪肉腫の腫瘍発生
1999 (平成11)	45 (東京)	戸田 修二	甲状腺濾胞上皮細胞の増殖と分化：甲状腺濾胞の再構築と細胞外基質及びサイトカインの分子細胞生物学的研究
		堤 雅弘	ハムスターにおける膵管癌の発生と進展の分子機構とその修飾
		酒井 尚雄	インテグリン-細胞外マトリックス間相互作用に関わる制御機構の解析
		大橋 健一	透析アミロイドーシスの発症機序-アミロイド蛋白とプロテオグリカンの高親和性結合がその発症に関与する

		守山 正胤	悪性リンパ腫における B C L -6 遺伝子異常の意義
		中村 雅登	癌の間質血管新生における血管内皮増殖因子 (Vascular Endothelial Growth Factor, VEGF) の細胞付着型アイソフォーム V E G F 189 の役割
		山本 哲郎	新たなる単球走化因子から見た慢性炎単球浸潤の分子機構
		土橋 洋	細胞周期制御因子による肺癌の細胞増殖、進展のメカニズム
1998 (平成10)	44 (奈良)	林 一彦	ヒト E B ウイルス発癌の動物実験モデル：サル白血球由来 E B V 関連ヘルペスウイルスによるウサギ悪性リンパ腫の発生
		中江 大	ラットにおける内因性肝細胞癌発生機構の解析とその修飾
		北野 元生	4N Q O 誘発ラット舌癌に対する宿主遺伝子的感受性
		小田 恵夫	ヒト・コリンアセチルトランスフェラーゼの構造と中枢神経系における分布
		定平 吉都	赤芽球造血におけるマクロファージの役割
		平峯 千春	胸腺リンパ球のアポトーシスの生成と消化の場としての胸腺ナース細胞
		八尾 隆史	大腸上皮性腫瘍 (腺腫・癌) の発育進展における pericryptal fibroblast の意義
		長谷部孝裕	浸潤性乳管癌の新しい組織学的予後因子-腫瘍内線維化巣の臨床病理学的意義について
1997 (平成9)	43 (東京)	李 康弘	マウスの系を用いた発がん感受性規定因子の解析
		中村 卓郎	白血病発生におけるホメオボックス遺伝子の役割
		豊國 伸哉	活性酸素による組織傷害と発癌の病理学的解析
		笹原 正清	脳における血小板由来増殖因子 B 鎖の発現とその役割の解明
		安井 弥	消化管の生検・手術検体に対する分子病理診断
		菅野 祐幸	膵胸リンパ腫発症機序の分子病理学的解析
		長田 道夫	糸球体上皮細胞 (podocyte) の細胞生物学と糸球体硬化
		中山 淳	神経細胞の発生・分化に重要な糖転移酵素, ポリシアル酸転移酵素の発現クローニングとその神経系における役割
		山田 英二	軸索傷害後の神経細胞死
1996 (平成8)	42 (沖縄)	廣田 誠一	組織石灰化の分子病理学的解析
		山口 朗	骨芽細胞の分化とその調節機構
		小西 登	ヒト前立腺癌の遺伝子異常の解析-病理組織との対比
		落合 淳志	腸上皮化生を伴う慢性萎縮性胃炎における p 53 異常
		小笠原一誠	T 細胞活性化機構に基づいた新しいペプチドワクチンの開発
		梅澤 明弘	ヒト EC 細胞の分化初期に単離された分化関連分子 E A T の生物学的機能
		米澤 傑	ヒト癌におけるムチン抗原の発現と癌の悪性度との関連性
		松浦 成昭	癌の転移における接着分子インテグリンの意義
1995 (平成7)	41 (東京)	辻村 亨	c-kit レセプター・チロシンキナーゼを介したマスト細胞の分化・生存・腫瘍化
		脇坂 明美	遺伝性脊髄小脳変性症の遺伝学的研究
		田村 元	胃の腺腫、分化型腺癌に関する分子病理学的考察
		土屋 永寿	肺癌の遺伝子変化と組織像
		小田 秀明	ヒト腫瘍においてホットスポットとして見いだされる p53 遺伝子変異の解析-肝芽腫と肉腫様腎癌の検索から-
		樋野 興夫	ヒト結節性硬化症 (TSC2) の疾患モデル (Eker rat) の発癌病理
		今井 俊介	野生マウスにおけるマウス乳癌ウイルス (MM T V) および乳癌関連癌遺伝子の解析
		北川 昌伸	レトロウイルス感染に対する新しい治療モデルの開発：E n v 類似蛋白によるウイルスレセプター阻害機構の解明と遺伝子治療への応用
1994 (平成6)	40 (東京)	上田真喜子	ヒト冠状動脈傷害の修復機序-免疫組織化学的および分子病理学的解析
		三俣 昌子	血行力学的因子 (ずり応力) による血管内皮細胞の形態と機能の変化-ことに動脈硬化の成り立ちに関連して-

		岡田 保典	マトリックスメタロプロテアーゼと組織破壊
		深山 正久	Epstein-Barr virus 関連腫瘍の病理-最近EBVとの関連が明らかにされた膵胸関連胸膜リンパ腫・胃癌について
		入江 宏	単純ヘルペスウイルス感染に対する消化管免疫による防御-経口ワクチン開発の可能性について-
		宮澤 正顕	レトロウイルス抗原の免疫認識-感染防御と自己認識の間-
		長田 憲和	l p r -GVH病と自己免疫疾患の解析-T細胞クローンとハイブリーマ抗体を用いて-
		佐藤 昇志	ストレス蛋白質 (hsp) の癌生物学における役割
		榎本 克彦	細胞接着装置Tight Junction の分子構造と機能および癌化における発現変化
1993 (平成5)	39(東京)	筒井 祥博	サイトメガロウイルスによる脳形成障害の病理学的研究
		芝山 雄老	門脈圧亢進の発生機序-肝微小循環の生理学的ならびに病理形態学的解析-
		内田 俊和	E型肝炎-動物モデルの樹立、ウイルス遺伝子クローニング、及び抗体測定系の開発
		和田 了	大腸癌の組織発生と進展 (微小癌から進行癌へ)
		高橋 雅英	ret プロトオンコジーンの器官形成及び腫瘍発生における役割
		木村 伯子	神経内分泌腫瘍の機能発現と増殖機構の研究
		阿部 正文	中細胞型Bリンパ腫の組織発生と性状
		白井 智之	前立腺がんにおける多段階がんについての解析
		松原 修	肺線維症の病理：びまん性肺胞傷害 (DAD) における肺胞構造の改築、特に微小循環障害の果たす役割
1992 (平成4)	38 (東京)	竹屋 元裕	悪性線維性組織球腫構成細胞の本態に関する細胞病理学的解析
		阿部 賢治	C型肝炎感染症-その発症病理学および分子ウイルス学的解析-
		柳澤 昭夫	膵腫瘍の病理-特に新しい膵腫瘍カテゴリーの提唱
		林 良夫	シェーグレン症候群実験モデルマウスによる病因解析の試み
		樋口 京一	マウス老化アミロイドーシス-沈着機構の分子病理学的解析-
		中村 卓郎	神経線維腫症Ⅰ型の腫瘍発生機序-ハムスターモデルによる解析-
		澤井 高志	慢性関節リウマチ (R A) にみられる炎症性関節破壊の分子病理学的解析
		松下 央	Parathyroid hormone-related protein の発現からみた副甲状腺の過形成と腺腫
		津田 洋幸	腎細胞腫の組織発生に関する酵素組織化学的、免疫組織化学的並びに分子遺伝学的解析
1991 (平成3)	37 (東京)	江角真理子	C型肝炎ウイルスの感染-ウイルスのheterogeneityとその感染による肝疾患の全貌-
		向井 清	胸腺上皮性腫瘍の機能的および分子生物学的特性-悪性度との関連-
		笹野 公伸	卵巣とその腫瘍における性ステロイド産生の場の解析-ステロイド合成酵素の局在と発現様式-
		佐藤 雄一	新しい組織のパラフィン包埋法とその分子病理学への応用
		遠藤 雄三	グラム陰性細菌によるマウス l g A 腎症モデル
		岡安 勲	慢性潰瘍性大腸炎における大腸癌の発生機序
		螺良 愛郎	マウス乳癌ウイルス (MTV) の乳腺への伝達とそれによる腫瘍発生
		大谷 明夫	ヒト癌間質反応-線維芽細胞の形態・機能変化を中心に-
1990 (平成2)	36(横浜)	中村 康寛	ヒト肺発育異常に関する病理学的解析
		津田 均	ヒト乳癌における癌遺伝増幅と癌の悪性度ならびに組織像との関連
		神谷 研二	ホルモンによる乳腺上皮細胞の分化、増殖制御と癌化
		能勢 真人	膠原病疾患群の病変多様性を規定する遺伝的要因に関する実験病理学的研究
		藤原 睦憲	乳頭状膀胱腫瘍の細胞遺伝学的研究
		青笹 克之	慢性炎症を基盤として発生する悪性リンパ腫の病理学的、疫学的研究
		田坂 捷雄	自己抗体によるサイトカインの誘導とその病態生理学的意義
		横田 忠明	Amyloidogenesis におけるamyloid enhancing factor について

猪山 賢一	鶏胚内軟骨性骨化過程におけるType I, II, IX, X コラーゲンおよびそのmRNAの局在と動態 －免疫組織化学とIn situ hybridization 法の併用による観察
上山 義人	G-CSF (granulocyte colony stimulating factor) 産生腫瘍－機能レベル、蛋白レベル、 mRNAレベルの検討－

1989 (平成元)	35(東京)	名倉 宏	血管内皮細胞の免疫組織化学的観察－その構造と機能の多様性について－
		江石 義信	自己免疫病病因論にたいする実験病理学的アプローチ
		福田 悠	びまん性肺疾患における肺胞構造改築の機序
		清水不二雄	巢クローン抗体応用による腎障害機序の解析
		中沼 安二	肝内胆管付属腺の病理
		菅原 勇	制癌剤耐性遺伝子産物 (P-糖蛋白) の分子病理学的研究
		立松 正衛	胃癌細胞の分化能, とくに胃前癌病変についての病理学的解析
		川口 隆憲	血行性転移の成立機序に関する実験的研究－特に癌細胞の定着と血管外脱出について－

* 1988 (昭和63)年以前の受賞者と演題については現在整理中です。(随時更新予定)